

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-190	24-081	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Smoking, alcohol consumption, and risk of recurrent falls in community-dwelling Japanese people aged 40-74 years: The Murakami cohort study 喫煙、飲酒と再発性転倒リスクとの関連：40～74歳の日本人地域住民を対象とした村上コホート研究		
<b>執筆者</b>		
Kimura S, Suzuki C, Kitamura K, Watanabe Y, Kabasawa K, Takahashi A, Saito T, Kobayashi R, Oshiki R, Takachi R, Tsugane S, Yamazaki O, Watanabe K, Nakamura K.		
<b>掲載誌</b>		
Geriatr Gerontol Int. 2025 Jan;25(1):67-74. doi: 10.1111/ggi.15040.		
<b>キーワード</b>	<b>PMID</b>	
偶発的転倒、飲酒、コホート研究、交互作用、喫煙	39644115	
<b>要 旨</b>		
<p><b>背景：</b>喫煙や飲酒と転倒との関連についてのエビデンスは十分ではない。本研究では、中高年層における喫煙・飲酒と転倒リスクとの縦断的な関連を明らかにすることを目的とした。</p> <p><b>方法：</b>本コホート研究の対象は、地域在住の日本人 40～74 歳の 7,542 名である。ベースライン調査は 2011～2013 年に自己記入式質問票で実施され、5 年後に第 2 回目の調査を行った。予測因子は喫煙レベルおよび飲酒量であり、アウトカムは再発性転倒（過去 1 年間に 2 回以上の転倒）とし、自己申告による情報を収集した。共変量には、人口統計学的要因、生活習慣、BMI、一般的な健康状態、既往歴を含めた。</p> <p><b>結果：</b>参加者の平均年齢は 60.3 歳であり、喫煙レベルが高いほど再発性転倒リスクと関連しており（トレンド調整済 P 値=0.0386）、1 日 20 本以上の喫煙者では、生涯非喫煙者に比べて有意に高いリスク（調整後 OR:1.93, 95%CI : 1.20–3.10）との関連が見られた。喫煙と再発性転倒リスクの関連は、非飲酒者よりも飲酒者において強く（調整後 OR:2.75, 95%CI : 1.57–4.81）、交互作用の可能性が示唆された(P=0.1035)。飲酒量と再発性転倒リスクとの間に用量依存性の関連は全体としては認められなかったが、男性において中等量（エタノール換算 150～299g/週）の飲酒者が非飲酒者と比べて有意に再発性転倒リスクの低下との関連が認められた（調整後 OR:0.57, 95%CI : 0.33–0.98）。</p> <p><b>結論：</b>喫煙は転倒再発リスクの上昇と用量依存的に関連していた。飲酒については用量依存的な関連は確認されなかったが、適度なアルコール摂取は、転倒リスクの低下と関連している可能性がある。さらに、喫煙とアルコール摂取の間には、転倒リスクに対する交互作用の可能性も示唆された。</p>		